日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の１　TEL &FAX　52-3097　　2015年９月６日（日）1508号(1)

民報 ゆうばり

戦争させない！9条壊すな！

集会に74名、パレードには30名が参加！

『戦争法廃案！8・30夕張集会』

８月30日、「戦争法を廃案にする夕張連絡会」が、戦争法廃案の集会とパレードを行いました。

「全国一斉100万人行動」に呼応した取り組みで、国会前には12万人が集まりました。

集会では、夕張労連議長筒井勇治さん、新婦人夕張支部長久世公子さん、ゆうばり女性９条の会共同代表の戸田明子さんがそれぞれ挨拶しました。

また、新婦人主催の「新婦人祭り」に産直販売に来られた長沼農民組合薮田享さんが、戦争法廃案と、TPPからの撤退を訴えました。

会場で「安倍内閣退陣２００円タコ焼き」が販売されました。

参加者はそれぞれ工夫した横断幕やプラカードで参加しました。

中でも、目を引いたのが、スティック風船で、「９」をかたどった色鮮やかなバルーンアートでした。

参加者は、一斉に「９条壊すな！」「戦争させない！」とコールしました。

連絡会事務局の熊谷泰昌さんに話を聞くと「会場には、市外からの参加者が数人あり。インターネットの発信や連日、宣伝カーで、参加を呼び掛けた成果でしょう」と運動の広がりを強調しました。

パレードには、30名が参加し、若菜商店街を、「戦争させない！」「戦争法廃案！」と大きな声で、訴えました。

夕張では、10数年ぶりのパレードに、集会参加者は短時間でしたが、元気の出る明るい集会とデモ……。

大好評『バルーン９風船・タコ焼き』も登場！

新婦人まつりと産直まつり

８月30日（日）10時から14時過ぎまで、ゆうばりはまなす会館に於いてにぎやかで楽しい行事が行われました。

来賓の日本共産党夕張市委員会委員長くまがい桂子さん、労連議長筒井勇治さんのご挨拶を受けた後、ラジオ体操・ミニミニ運動会と続き午前の部があっという間に終わりました。

昼食はそれぞれ持参のおにぎりや、本町班が出店したお赤飯、若鹿班のおでんで腹ごしらえ。豚汁も出ました。おかわり続出。

南部地区からは、漬物やスイカの差し入れもありました。

午後は、ビンゴゲーム・バザーと続きました。

今年は、南部地区から100歳を迎える男性の方の参加もあり、参集した皆さんは、元気と勇気をもらいました。

また、屋外には労連のたこ焼きブースができ、熊谷さんや阿部さんが腕を振るい、飛ぶように売れていました。

まつりも終わりに近づくころ、長沼農民連の産直トラックが到着しました。これは、いつもの新婦人まつり…（２面へ）

（１面より）のプログラムと違うところでした。

小型トラック二台にトーキビ・白菜・長ねぎ・玉ねぎ・ズッキーニ……生花…。新鮮な野菜がこれまた飛ぶように売れました。

例年は長沼に出かけていた産直交流会ですが、今年は、トラックに満載して来てもらいました。

思い思いの買い物をして、まつりは終了しましたが、何よりも平和を願う新婦人は、その後の「戦争法案は廃案へ」の集会やデモに参加して意義深い行動の一日を終わりました。

くずさんの 夕張歴史散歩（32）

土佐の「新聞の葬式」デモその２

前号を書いた後、私はネットで「日本の百年」（古本）を発見、早速購入して読み始めました。いや実に面白い。明治の初期の事実が、かなり詳しく書いています。

重複を恐れず「新聞の葬式」を再度紹介したいと思います。

「新聞の葬式」の発端

南国土佐に起きる立志社を中心に、沸立つ自由民権運動が頭痛の種だった明治政府は、立志社の機関紙だった「高知新聞」の弾圧に乗り出します。

この「高知新聞」１８８０年（明治13年）７月に創刊され、翌年８月、社長に片岡健吉、論説を植木枝盛と坂本南海男（坂本直寛のこと）が担当し大いに注目されます。

なかには、民権坊やと言われた少年時代の幸徳伝次郎（幸徳秋水のこと）にも、感化を及ぼします。

「同心異体」の二頭立て

早くも、明治14年10月には第１回の停刊処分を、翌月11月にまた停刊を受けます。そこで一計を案じ同社から「土陽新聞」を創刊します。

『以来「高知」「土陽」の同心異体の二頭立てで、打ち寄せる弾圧の波をかいくぐる。つまり「高知」が停刊をくうと「土陽」を出し、「土陽」停刊されれば、たちまち「高知」を複刊する。このイタチゴッコが毎月の行事であった』と書いています。

このように、権力に対してあの手この手と抵抗の手段は、尽きることはありません。

しかし二頭立ても立てつづけに停刊をくらい、今度は「高知自由新聞」を創刊しての応戦です。

いよいよ「新聞の葬式」の幕開け

ほとほと手を焼いた取締り当局は、遂に「高知新聞」発刊禁止の処分に出ます。

このとき、明治の自由民権の志士たちは、どう出たか・・・・。

森　つねと「かけある記」
日本共産党道国政相談室長
森　つねと

だれの子どももころさせない

前回の「かけある記」で息子の誕生についてご報告させてもらったところ、本当にたくさんの方から励ましの言葉をいただきました。

「お子さんはどうですか」「母親は大丈夫なの」。どこへ行っても声をかけられます。手紙やＳＮＳ（インターネット上の交流）のメッセージもすべて読ませていただきました。人の優しさをしみじみ感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。

おかげさまで、六五八㌘だった息子の体重は一六〇〇㌘になり、超低体重児に起こる様々な症状を乗り越えました。可能な限り毎日、母親と母乳を病院へ運び息子と面会していますが、耳を澄まさないと聞こえなかった泣き声はずいぶん大きくなり、「俺だって、生きているよ」と主張しています。母親の回復も順調です。

この子がもう少し大きくなったら、どれほど多くの人たちに支えられ育ったかを、伝えてあげたいと思います。

「改憲論者」でありながら戦争法案阻止の先頭に立って奮闘されている憲法学者の小林節さんは、かつて国民を守るためには自衛隊員の犠牲も仕方ないと考えていたそうです。しかし、「恥ずかしながら娘が生まれ、命の大切さを実感」したといいます。

母親たちの「だれの子どももころさせない」を合言葉にしたたたかいは、人類共通の願いであり、これほど強いものはありません。すでに戦争法案の立法根拠は崩れています。私も子を持つ親として、戦争法案廃案へたたかい抜きます。